



アルゼンチン共和国への消防技術指導員派遣報告

# 消防技術指導員派遣報告

## “アルゼンチン共和国”

(平成 29 年 1 月 6 日～1 月 23 日)



一般社団法人 日本外交協会の「リサイクル援助事業」及び「国際交流・人材育成事業」に伴う松戸市消防局からの消防職員海外派遣報告

松戸市消防局 警防課

平成29年1月



## アルゼンチン共和国への消防技術指導員派遣

- 1 期 間 平成29年1月6日から同年1月23日まで
  
- 2 派遣地 アルゼンチン共和国（時差マイナス12時間）
  - (1) チャコ州バランケラス市
  - (2) ブエノスアイレス州アルミランテ・ブラウン市
  
- 3 被派遣者 松戸市中央消防署 消防司令補 又吉 直人（41歳）  
（国際消防救助隊登録隊員）  
消防司令補 古橋 康則（40歳）  
（国際消防救助隊登録隊員）
  
- 4 日程概要
  - (1) バランケラス市
    - 1月 9日～1月11日 （第1グループ）
    - 1月12日～1月14日 （第2グループ）
  - (2) アルミランテ・ブラウン市
    - 1月16日～1月17日 （第3グループ）
    - 1月18日 義勇消防隊本部表敬訪問  
日本大使館表敬訪問
    - 1月19日～1月20日 （第4グループ）
    - 1月21日 ブエノスアイレス市内視察  
アルゼンチン共和国出国準備

5 指導風景等



No.3

放水訓練



No.4

はしご車による救出訓練



No.1

(一社) 日本外交協会による開講式



No.2

建物火災を想定した救出訓練



No.7



現地義勇隊へ表敬訪問

No.8



在アルゼンチン大使館訪問

【写真中央】菱山 聡 参事官

No.5



(一社) 日本外交協会による修了証の交付

No.6



義勇消防隊本部長に記念品を贈呈



## 6 指導成果

- (1) 訓練の開始前に準備体操をする習慣や、訓練時に隊員の安全を管理する習慣がないため、救助に向かう隊員が怪我をしたのでは、要救助者を救出することができないと、安全管理の必要性を伝え、災害現場では要救助者の救出はもちろんのこと、活動する隊員は絶対に怪我をしてはいけないと指導しました。
- (2) 資機材が十分に配置されていない実情に合わせ、今ある資機材で救出できる方法を紹介し『これだったらできる』と喜ばれた。また、資機材の支援を、外交協会の方に依頼しました。
- (3) インフラ整備が開発途上にあり、消火栓使用により各家庭への給水が不安定になるなど、その影響が大きいアルゼンチンでは様々な国の消防車が運用されており、積載水の少ない日本の消防車が効果的に活躍できるよう15,000リットルの水を積載している外国の大型水槽車から日本の水槽車に送水し、効果的な大量放水ができるよう指導を行い、貴重な水資源である消火栓からの送水をしなくても、積載水の少ない日本の消防車が活躍できるよう訓練を行いました。
- (4) アルゼンチンの地方都市には統一された消防組織がなく、車両や資機材も格差があります。今回の研修で実情に合わせた内容で実施したことにより、隊員達もとても熱心に取り組み、この研修で先進国の消防技術を身に付けようという意気込みが感じられ大きな成果があったと思います。
- (5) 地元のテレビ局や新聞社から取材を受け、バランケラス市長も視察に訪れるなど、どの市に訪問しても歓迎を受け、講習終了後には感謝の言葉ももらい今後も指導をお願いしたいとの言葉ももらいました。

## 7 今後の抱負

今回の研修では、車両や資機材、準備体操や安全管理の重要性を再認識することができました。また、資機材が不足している中でも市民の生命、身体、財産を守るという同じ志を持った者に国境はないのだと感じました。

言葉による壁が大きいと実感しましたが、現地の情勢や実情に合わせることによりコミュニケーションがとれることを体験しましたので、今後の国際消防救助隊活動に生かし、東京オリンピック・パラリンピック開催による外国人対応についても松戸消防で生かしていきたいと思います。

## 8 その他

- (1) アルゼンチンは遠く乗り継ぎ地のアメリカ・ダラスでは寒波の影響でマイナス5度の気温となり、アルゼンチン・バランケラス市では40度を超え



る気温となりました。飛行機も遅れが出て、当初 41 時間で現地入りする予定が、51 時間半もかかってしまいました。

(2) 負けたチームが腕立て伏せをするという競争をさせたところ、勝ったチームも含めた参加者全員が腕立て伏せを始めました。どうしてかと聞いたところ『仲間だから』という返事が返ってきました。仲間意識が強いようです。

(3) バランケラス市では、ゴミ集積所からの収れん火災（放置された空きビンがレンズの役目を果たし、太陽光を 1 点に集中させることで発火する火災）とタバコのポイ捨てが原因となる林野火災が多く、また建物火災ではエアコンからの出火が多いようです。その他、交通事故による救助出場が多いようです。

(4) アルゼンチンの義勇消防隊には女性の隊員が全体の約 2 割と多く、赤ちゃんを連れて参加する隊員もあり、日本の女性隊員はどのような活動をしているか熱心に聞かれました。

日本には「女性消防団」という組織があることを伝えたところ、女性のみで構成されているというところにとっても感銘を受けているようでした。

(5) 今もまだ印象に残っているのは、林野火災に出場した仲間を消火活動中に亡くしてしまったと語ってくれた一人の青年の話でした。その青年は発足してまだ 1 年という義勇消防隊に所属しており、それはとても悲しい出来事だったけれど、出来たばかりの自分達の隊に今回の研修で学んだことをしっかり伝えたいと、積極的に訓練に取り組んでいました。

【問い合わせ先】

消防局 警防課 ☎047-363-1115